

『君はラブリー』

◇登場人物

・男

・女（既に死んでいる）

・人形（ダッチワイフ）

部屋の中。男、椅子に座って、スマホを操作するなりしている。

女、部屋の隅に立ち、男を見ている。

女 ねえ、聞いている？

間

女 ねえ！

男 ……うん？

女 どう思う？

男 なにが？

女 だから、前髪。

男 ああ。

女 切ったほうがいい？

男 うーん、わかんない。

女 でも伸びてきたからさ。なんかもう眉上じやないと落ち着かない。

男 うん……別にそのままでもいいと思うけど。

女 そっか……。

男 でもどうせ切ろうと思ってるんでしょ。

女 うん。

男 なんなんだ……でもさ……

女 なに？

男 でも、切れないでしょ？

女 え、なんで？

男 だってさ、死んでるさ、一応。もう。

女 ……うん。

男 一応もう死んでたら切るとかかっていうアレじゃないでしょ、いつも言ってるけど。っていうか、そもそも髪伸びてないからね。

女 うそー！ 伸びてるよ！

男 いや、ずっとその長さだよ。

女 うそ？ 気のせい？

男 うん。

女 そっか……。

間

女 今日何するの？

男 いや、別に。

女 合コン？

男 なんで？

女 いや、なんとなく。でも別にいいんだよ、本当に。彼女つくっても。

男 うん。

女 まあでも実際来たら若干落ち込むはずだけど。

男 ……うん。

インターホンの音。

男、玄関へと向かう。

女、男の背中を見つめている。

男、大きなダンボール箱を持って戻ってくる。

女 でか！ なに入ってるの？

男 うん、ちよつと

女 へ？ なに？

男、無言で箱を開ける。

中からダッチワイフ（「人形」）が出てくる。服は着ていない（下着のみ）

男、人形を椅子に座らせる。

女 え？…なにこれ？

男 いや、あの…

間

男 ダッチワイフ。

女 ……どういうこと？

男 え？

女 人形？

男 ちがう。ダッチワイフ。

女 ダッチワイフ？

男 ちがう。ラブドール。

女 なんかそれ！ 一緒でしょ！

男 違うし。

女 というかあんたが最初にダッチワイフって言ったんでしょ。

男 わかりやすくいったら…。

女 なんだっけ？ ええと、ラブドール？

男 違う。くるみ。

女 名前付けんな！

男 いいやつし！

女 というか名前よ！

男 可愛いだろ。

女 どこがよ！（部屋を出て行く）

男 なんて怒ってる。

間

人形に向き直り、いろいろ触っている。

男、一度消える。

人形、動き出す。

人形 こうやって私くるみは、このウチにやってきたのでした。一人暮らしにしては広すぎるこの部屋は、私の主人を、どうやらとても寂しくさせていたみたいです。

男、女性用の服を持って戻ってくる。

男 はい、じゃあ服着ましようかね。

男、人形に服を着せ始める。なかなか上手く着せられず手こずっている様子。

女（出てきて）え、ちょっと待って！ それ私のじゃん！

男 えっ？

女（服を取り返そうと）ちょっとやめてマジで。気持ち悪いんだけど。

男 別にいいさ。

女 ガチでやめてほんとに！勝手にこんなってアレするのとかないでしょ！

男 だってもう着ないでしょ。

女 いやでも私のだしこの服。しかもなんかよりによってダッチワイフに着せるとかマジでありえないんですけど！

男 そんなに？

女 マジ最悪。死んで正解だわマジで。

男 そこまで言わんでよくない？……っていうかき、そんなって言われたらなんかあれだから一応言うけど正直、なんかいま怒られるみたいない

感じなってるけど、服捨てんで置いてあるだけでも、死んだ後なのに、なんかそのことに感謝とかしてもアレじゃん？っていう。

女 ……は？ 何それ。いまそれ関係なくない？

男 え、だっていまこの服の持ち主じゃないさ。

女 いやだからそれ私のじゃん。

男 でももう死んでるでしょ？

女 え、何言ってるの？ 死んでようが生きてようが私のものに変わりないじゃん。

男（女の台詞に重ねて）だって俺の部屋で俺が持つてるしさ実際！

間

女、男に向かって服を投げ捨てる。

男 ……なに？

女 ……いいよもう。（去っていく）

間

男、服をゆっくり拾い、去っていく。

人形 結局、私はまだ裸のまま。私の主人が着せてくれない限り、私はずっとこの格好で、ずっとここにいます……でもそれも、仕方ないことです。だって私は、人形なのですから。

男、紙袋を持ってにこやかにやってくる。

男 へへー。買ってきたよ、服。

間

男、紙袋から中身を取り出す。明るい色のワンピース。

女 勝手にしたら？

男 ジャーン。どう？ かわいいでしょ。

女、退場。

男、人形にワンピースを着させる。

男、人形の服や髪型を微調整している。  
女、しばらくして戻ってくる。手にはキャップか何か。

男 着せやすい！

女 ねえせめてこれとか被せてから――

女（やっつけてきて）なにそれ？

男（さえぎって）だから！

男 いいでしょ別に。

女 だってそれだけってもの足りないじゃん。

女 あんたそんなのがいいわけ？

男 ーよ、これくらいがいい。

男 なんかあんな意味のわからない色使いのやつとかよりは、全然こっちの方がいいと思うけど俺は。

女 なんかいかにもモテ服みたいなアレじゃん。ゆるふわ的な。

女 なにそれ？ 文句？

女 この子は東京の女子大にでも通ってるんですか？ そういう設定で

男 いや。

男 すか？

男、人形にカツラなどをかぶせ、髪型を変えている。

男 いいやつしどんな設定でも。

女 っていうかさ、その服だったらその髪型じゃなくて――

女 あんたの好きな格好させてるだけでさ、この子の意見とか入ってないじゃん、このファッションに。ファッションを楽しんでないさ、この

男（さえぎり）いいよ！ 俺の好みにさせてくれん？

子が。まあ人形だからそんなアレとかはないけどさ。でもそんなって自分の欲望をぶつけるみたいな服の着せ方とか、なんか気持ち悪いと

女 でも絶対そっちよりも可愛くなるしさ、

か思わないの？

男 男の可愛いと女の可愛いはちがうから！

男 いや、別にそんなアレじゃないけどな。

女 一応そもそもがダッチワイフだから男の欲望をアレするのーだけど、でもそれと服は関係ないし。もう逆に性欲とかのあーいうやつだったから最初から服着せる必要とかないじゃん。

男 別にそんな自分の欲望の為とかそういうアレじゃないわけよ、だからそれにくるみも、こういうのが好きだわけよ。

女 は、何言ってるの？ あんたが好きなの押し付けてるんじゃない。

男 本当！ こういうのが好きって。

女 誰が。

男 くるみが。自分で。

女 バカじゃないの？ くるみが自分で言うわけないでしょ。

男 本当だし。(人形に)なあ。

人形 うん。

女 え！ ……ええええ！

人形 はい？

女 え、あんた喋れるの？

人形 え？ あ、はい。(立ち上がる)

男 え、さつきもしやべってたよ？

女 嘘！ 聞いてなかった。ってかあんた知ってたわけ？

男 なにを？

女 喋れるの。

男 え、だって、俺が買ったし。(椅子に座る)

女 そうなの？ っていうかダメでしょ、あんた喋ったら。

人形 え、なんでです？

女 だって人形でしょ？

人形 はい。(女を指し)でも、死んでますよね？ 死人？幽霊？ですよ？

女 ……ですけど？

人形 じゃあ一緒なんじゃないですか？

女 なにが？

人形 死んだ人も喋らないですよ、実際は。

女 ……まあ、うん、そうだけ。

人形 じゃあ私のこと言えないと思うんです。

女 ……でも死人と人形は違うでしょ？

人形 違いますか？

女 違うでしょ！

人形 どこがどう違うんです？ 具体的に。

女 どこがとかって言われたら急にはアレけど……例えば人形は生きてないでしょ。

人形 幽霊もですよ？

女 でも幽霊はアレじゃん。生きてたじゃん、元々。

人形 でも現時点では既に生きてませんよね？ そしたら今現在での違いと違って言えないと思うんですけど。

女 でも幽霊は魂とか感情みたいなものがあるじゃん。人形にはないじゃん。

人形 魂や感情がない存在と、じゃああなたはなんでいま会話ができてるんですか？

女 それは……私が想像してあげてるからできてるわけ。

人形 想像？

女 あんたがこんなこと言いそうだなーとか、こんなこと考えてそうだな

ーとかっていうのをわざわざ想像してあげてるから会話できるわけさ。

人形 それは、私に魂を感じてるってことじゃないんですか？

女 ……

人形 教えてあげます？ あなたと私の違い。それは魂じゃなくて、身体があるかないかなんです。私には、このシリコン製の肉体があります。でも、あなたに肉体はありません。あなたはいま自分が肉体を持って、いるように感じているかもしれないけど、実際は見えてないんですよ、誰にも。だから私やこの人はあなたのその魂というか、なんとなくふわふわしたこんなこと言ってそうだなみたいなものを想像して会話してますけど、実際にあなたがどこにいてどんな姿をしているのかははっきりわからないんです。あなたがたとえそこらへんにある物を持ち上げたとして、それが持ち上がったことは認識できますけど、あなたが持ち上げる行為は目に見えません。ただのポルターガイストみたいな感じになっちゃうだけなんですよ。だからこの人は優しいから何も文句とか言わずに、まあほんとはいろいろ思ってることはあるかもしれないですけど、実際ちよこちよこ言ってたしさっきも、でも基本優しいからちやんとあなたの相手とかしてあげてますけど、でも普通に外から見たら、なんかどうやらそこにいらしい幽霊らしき存在がなにやら話しかけてきてる、みたいな、なんかそんな気持ち悪い感じにしか映らないんですよ。だからこの人は優しいから言わないと思うんで私が言いますけど、代わりに。もうね、いい加減早く成仏しちゃうたらどうですか？ っていうかこれ言っちゃいますけど、なんかさっきから、さっきだけじゃなくて私が来た時から既にそうでしたけど、

なんかいちいち自分の洋服を勝手に着せるとか私に、とか言ったり、かと思ったらこの服ダサイみたいなの、なんかそういう服のこだわりみたいなのかいっちゃん出してくる感じ、なんだろう、逆にダサイっていうか。なんかファツションに対して一言も二言もありません、違いの分かる人間ですみたいな、そういうのとかって結局内輪っていうか。分かる人だけ分かるおしゃれみたいな感じとかって、結局閉じちゃってるんじゃないのそれって、ってことなんですよね。それにそもそも、見えてないんですよ、あなたのファツション。あなたがいま着てるその服、トレンドとかこだわりポイントとか色々あるんですけどオシャンティなあなたのことなので。でも言っちゃうと、関係ねーよ、っていう。誰も知らねーよそんなの、っていう。っていうか見えねーよお前死んでんじゃないんっていう。だからもうこの人が私にどんな服着せようがブーブー言うのもやめてもらっていいですか？ 私的にファツションとかそんな興味ないっていうか、まあないわけじゃないですけどでもそれは可愛い可愛くないとかこだわりとかそういうんじゃないで、モテるかモテないかみたいなことなんですよね、私的に。モテるんなら別になんでもいいわ、っていう。それを媚びてるのかなんとか言うヤツいますけど、別に全然言ってもらって構わないですけど、だってそれで結局幸せになれるのどっちだよっていう。…まあいよいよ、なんかしゃべるだけ無駄っていうか疲れた。まあそういうことなんで。どうか安らかにお眠りください。

男、いつのまにか眠っていた。

人形、男を揺すって起こす。

男 人？

人形 ダメですよ、こんなところで寝ちゃ。

男 人……

人形 もう、風邪ひきますよ……お風呂は？

男 まだ。

人形 ご飯は？

男 まだ。

人形 もう……どっちにします？

男 え、寝る。

人形 ダメです。選んで。お風呂？ ご飯？ それとも……

男 え？

人形、服を脱ぎだす。脱ぎ終わると、女の方を見る。

人形（女に）あ、これ、着ます？

間

照明C・O（了）